

## 第13回・KOセミナー報告

高橋克典

平成25年6月8日(土)・9日(日)、大阪江坂のサニーストンホテルで日本カイロプラクティック師協会(JSC)の第13回・KO(基礎応用)セミナーが開催されました。

会場には、全国より65名余りの受講者が集まり、KOセミナーも回を重ねるたびに受講者が増え、今回は前回より10名あまり増加しました。北陸からは、小松・山田・藤岡・野原・板尾・(小西・草間)の各先生方が参加してくれました。

今回のテーマは、腹部内臓の消化器系。講師は田中勝士先生と私高橋が担当しました。

8日(土)は午後2時より、田中先生の講義から始まり、2時間半にわたって詳しく消化器系の生理学を勉強しました。それから講師を交代し、私が4時半より解剖学と検査学、そして診断学を講義して、午後7時に1日目の勉強が終了しました。そしてホテルにチェックインを済ませ、7時半より近くの居酒屋で豚しゃぶ食べ放題、お酒飲み放題。たくさん食べて、たくさん飲ませていただきました。そして部屋に戻ると三々五々受講

者が集まってきて、恒例の朝までセミナーの始まり。本セミナーではカリキュラムの型通りの内容ですが、番外セミナーでは、各人のニーズに合った話が聞かれることもあり、多くの参加者が寝る間を惜しんで勉強に熱が入ります。今回はいつもより早く3時半過ぎで終了と相成りました。



翌9日(日)は午前9時より、私がメイン講師となり、テクニックの練習です。テクニックのメカニズムや要点を説明して実技です。受講生もテクニックが好きで自然と熱が入ります。午後からは各論で、様々な消化器系の症状や疾患



について受講生の中から患者を募って、実際のデモ治療を解説を交えながら体験して頂きました。そして午後3時、2日間のセミナーもあつと言う間に終了となりました。

次回14回目は、9月7日(土)8日(日)に開講されます。内容は内臓のホルモン系の勉強をします。講師は今回と同じく田中先生と私です。受講されていない方は、次回は是非受講されることをお勧めします。皆さんに満足して頂けるセミナーになるように、私も早々資料作りに励みます。

尚、KOの復習会は富山例会で質問に応じて行いますが、同友会の臨床過程(金沢例会)では、年明け1月~4月まで消化器系とホルモン系がありますので、通して復習出来ます。是非、金沢例会に参加して下さい。

## ☆☆ 日本カイロセミナー2013 開催 ☆☆

平成25年7月6日(土)7日(日)、日本カイロプラクティック師協会(JSC)主催、第15回日本カイロプラクティックセミナーが茨城県のデュプレックス・セミナー・ホテルで開催されました。セミナーに先立ち、5日(金)にはJSC役員・代議員、セミナー実行委員の合同会議があり、セミナーの打合せのほか、JSCの様々な問題に対して討議されました。



6日午前中はセミナーの準備、正午を回る頃より全国から会員、会員外の先生方など合わせて77名が来場し始め、開演前より幾つもの人の輪ができ、旧交・新交を温めていました。

今回のテーマは「歩」、JSCが今まで培ってきた会員の絆を礎として、会員一人ひとりが行動を起こしまし

よう、一步踏み出しましょう、そのことによって輝けるカイロの未来に繋がっていくという願いです。

開会式では、大会長の荒木寛志会長、そして実行委員長の私の挨拶でいよいよ2日間のセミナーが始まりました。

まずは「禁忌症対策講座」で幕開け。講師はJSC前副会長の南部徹先生と、現副会長の寺山智章先生の二人。

JSCでは平成3年の厚生省健康対策局医事課長通知（いわゆる三浦レポート）で定められたカイロプラクティック施術の禁忌症16疾患について、責任ある団体として会員に周知徹底を図るために継続的にセミナーを開講している唯一の団体である。

プログラム2番目は基調講演。長野県のメンタルクリニック月下香庵・身体心理研究室の伊澤勝典先生による「精神心理の構造・機能・関係論」。

身体刺激が精神・心理に及ぼす影響、効果について論理的に分かりやすくお話して頂きました。

午後6時半、あつと言う間に初日の講演が終了。参加者のチェックインの後、午後7時より、ホテル中庭でバーベキュー大会。大いに食べて、大いに飲んで、大いに語り合い、抽選会もあり楽しいひと時を過ごしました。2次会は恒例の地獄部屋。大部屋に集まって朝迄セミナーの始まりです。本番のセミナーでは得られない貴重な話も聞けるとあって眠いのも忘れ私も就寝したのは午前5時でした。

翌7日は午前9時より、臨床基礎講座として青森県の小野永一先生による「Total Body Balancing」。

膜系の理論、検査法、施術法について、デモを交えて概要を教えてくださいました。私も日頃の臨床では膜系の施術を中心に行っていますが、とかく自己流になってしまいますので、今回軌道修正することが出来て大変勉強になりました。

午後から早いもので最後の講演、臨床応用講座として、福岡県の荒木寛志JSC会長による「眼球運動と舌運動を使つての疼痛緩和法」。

まずは生理学的理論の説明があり、筋力を使ったストレス検査法で眼球の動きを検査して、動きの障害があった方向に眼球運動を行って、症状を改善していく方向を学びました。

楽しい時間は早く過ぎ去るもので、あつと言う間の2日間でした。この度、私は実行委員長の重任を務めさせていただきましたが、有能なスタッフの皆さんに支えられて、自画自賛ですが、大変充実した素晴らしいセミナーとなったと思います。

次回は平成27年10月に同会場で開催されることが決まりました。次回のセミナーは今回以上に素晴らしいセミナーになるよう実行委員も既に意気込んで

います。是非、次回のセミナーには北陸勢は全員参加しましょう。



## セミナー前日会議に参加して

小松 正徳

平成 25 年 7 月 5 日 金曜日午後 3 時頃より、茨城県守谷市デュブレックス・セミナー・ホテルにて和気あいあいではじめました。(役員 6 名 代議員 9 名)。まず最初に会計監査が、濱田浩先生、齋藤正憲先生に決まりました。>

議題 1: KO セミナーのカリキュラムについて、変更しました。荒木先生と田中先生で調整中、講師の人選、補助講師、アシスタント講師（担当以外の講師、役員等）第 15 回、第 16 回は CCR を行う。(DVD 配布) 第 16 回は、小グループに分けて、CCR を行う。年度の始めの 1 回目 (①⑤⑧⑬) に CCR の要素を入れたものを行う。

① 筋・筋膜

② 末梢神経（脳神経、脊髄神経）

③ 胸郭（尿管、呼吸器、循環器）

④ 上肢

⑤ 下肢

⑥ 骨盤

⑦ 脊柱 1

（腰椎、胸椎）

⑧ 脊柱 2（上部胸椎、頸椎、後頭骨）

⑨ 頭

蓋

⑩ 顎関節

⑪ 中枢神経

⑫ 内臓

1

⑬ 内臓 2

⑭ 診断学

⑮ CCR 1

⑯

CCR 2

議題 2: 平成 27 年度の第 16 回 日本カイロプラクティックセミナーの日程、開

催地、実行委員長について、平成27年10月17・18日(土曜日、日曜日)開催地、会場は、同じデビューレックス・セミナー・ホテルで、実行委員長・宮坂仁先生、副実行委員長、柳永善先生でやるとなりました。

議題3:禁忌症の各支部の日程 東北支部11月20日 北陸支部10月13日 総会の時にもやるかも? その際、DVDで流してやることは、OKが出ていますが、販売はNOだそうです。それにしても今回初めて参加して本当に充実したセミナーでありました。つくばエクスプレスに乗って帰路の途中またまた虹を見てテンションが上がりました。以上 ご報告させていただきます。

—末寶小:執筆

## 「精神心理の構造・機能・関係論」

講師:伊澤勝典

レポート 中川 佳親

伊澤勝典先生による「精神心理の構造・機能・関係論」の基調講演は、今の私に足りなかったものを気づかせてくれました。

何気なく治療していたわけではないのですが、改めて明確な言葉で示されると、自分の中に自然と受け入れることができました。

徒手療法の基礎となるのは何か?

そして、患者の身体に触れる前に患者の不安・悩み・心配事を自分自身受け止める力量はあるのか? その力量がないと、患者を診る資格が無いのか? など、今の自分の治療法が疑問符となって頭に浮かんできました。

経験上、確かに、治療にはテクニックは重要ですが、患者に対する接し方ひとつで、患者は良くも悪くも反応します。

「症状が好転した」ということは、施術前の問診や表情・態度などから、患者との信頼関係が確実に構築され、この人(施術者)に身を委ねることが出来た

ということでしょう。反対に、何気ない一言から信頼関係が崩れ治療が妨げられる危険性もあります。

患者が訴えているさまざまな症状を、私自身の手でやわらげ、改善へ手助けができるこの徒手療法に自信を持ってこれからも取り組んでいこうと思います。



そのためは、私の第一印象が患者にどう受け止められるかが問題ですね。見た目は、ちょっと怖そうなので。うまく患者とのコミュニケーションを取る努力をします。

## 臨床基礎講座「Total Body Balancing」

講師：小野永一

レポート 山田隆司

日本カイロセミナー、2日目の午前中は、青森・小野先生の「Total Body Balancing」であった。3年前、北陸支部に小野先生をお招きして行ったセミナーと同じ内容である。

「Total Body Balancing」の講義に入る前に、小野先生の指示のもと、6人1組になり「このセミナーで何を得たいか」、「10年後の目標」等について一人ひとり発表し合ったり、また、2人1組で自己紹介したり、自分の長所をできるだけ多く相手に紹介する等を行った。私も含めてであるが、会場にいる多くの人は、前夜の飲みすぎ、寝不足で頭が回っていない中での、意表を突かれた講義の始まりであった。

さて、「Total Body Balancing」の講義内容であるが、小野先生いわく「本来は3日間で行う内容」だそうだが、今回はあまりにも時間が短く、要所をおさえながらの講義であった。

この講義を受講し、短い中にも参考になった点、気づかされた点を以下に述べたいと思う。

- ・短所と長所は紙一重。  
自分が短所と思っても、見方を変えると長所になる。
- ・我々は、つい患者を診るときに、犯人探しのように診てしまう。  
患者の良い所を探るように診ることが大切であり、我々がそのような姿勢で接することにより、患者も楽であり、リラックスしやすいと思う。
- ・3時間という短い講義であったが、その中で何かを掴んでもらいたいという小野先生のまじめさがうかがわれた。

- ・小野先生が行う正確で丁寧なデモンストレーションの中に、日頃の診療に対する真摯な態度が垣間見えた。見習いたいものである。

甘き味の会館

## 臨床応用講座「眼球運動と舌運動を使っの疼痛緩和法」

講師：荒木寛志

レポート 藤岡敦己

講義が始まる前に注意事項があった。

今日、沢山の書籍が出版されているが、著者の考え違いや誤植のために混乱することがある。よって、私のセミナーも疑いを持ってほしい。

時間の都合もあり、ものすごいスピードで講義が流れていったため、疑問に思ったことも飛ばさざるを得なかった。井澤先生もおっしゃっていたが、術者の気持ちは患者に伝わるので、疑問を持ちながら施術をすることは好ましくない。

セミナー中はテキストをじっくり読む時間もなかったので、家に帰って読み返すと知らないことが多すぎ、わからないことだらけ。この内容を理解するには、相当の時間がかかりそうである。

それはさておき、セミナーでは眼球と舌の動きを使って症状を改善させるデモも行われた。バドミントンをしている方の眼球の動きを観て、筋力検査をする力の入らない注視方向がある。その方向は見るのが苦手なので、シャトルを捉えるのも苦手である可能性がある。その方向と正面に術者の指を置き、2点を交互にすばやく15回ほど見させると筋力、眼球運動は改善されていた。

視野の右側の像は視交叉から右の脳へ情報が伝わり、視野の左側の像は左の脳へ伝わる。両目で視野のどの辺りが見にくいかを確認し、次に片方の目で確かめる。するとどのルートに問題があるか想像でき、そのルートをイメージして治療する練習をした。

次に重心を合わせる施術方法として、「トリガーポイントと筋肉連鎖」から学んだ。

日本カイロプラクティックセミナーの目的は「お祭り」であるため、1つ1つのセミナーに割ける時間は限られているので内容は紹介程度となり、この眼球と舌の運動を使っの方法もすぐには理解できないが、テキストに書かれている情報はとても興味深い。先日受講した伊藤ゼミ（神経学）との関連も大い

にあり、これから時間をかけて深く理解していきたいと思っている。また、  
ふるまひのよき人、  
ふるまひのよき人、

## ■勉強会のお知らせ

- 富山例会 第2、第4木曜日22時～ 高橋カイロプラクティック  
全尽堂にて
- 黒部例会 第3木曜日21時～ みやざき接骨院にて
- 金沢例会 勤労者プラザにて (問合せ：高橋克典まで)

## 会計からのお知らせ

平成25年度の年会費、また前年度の年会費が未納の方は、合わせてを納めく  
ださるようお願いいたします。

年会費：10,000円

### 納入方法

銀行振込の場合	北陸銀行 黒部支店(普通) 5053110 北陸カイロプラクティック師協会
現金書留の場合	〒938-0044 黒部市荒町415 穴戸 るるみ
直接納入の場合	例会や勉強会の時に、穴戸まで直接納め下さい。

## 編集後記

こんにちは、穴戸るるみです。先日、生地の花火を見に行きました。約2,000  
発が打ち上げられ20時頃から約45分間だったかな～。いつも思うことは、継  
続するって大変だな～とつくづく思う。毎年、寄付を集めに苦勞されている。  
継続は力なり！勉強も同じだと思うので、皆さん！がんばりましょうね（特に私  
は頑張らないと…）